

平成 26 年度業務実績報告書 修正案 新旧対照表

項目番号	原文	修正案
28	【取組実績】 ・ティーチング・アシスタント制度について、延 110 名を対象に実施した。	【取組実績】 ・ティーチング・アシスタント制度について、延 110 名を対象に実施した。<u>なお、同制度の運用にあたっては、教育訓練効果の検証に取り組むとともに、業務内容の一層の明確化を図った。</u>
32	【取組実績】 ・平成 26 年度より、大学院薬学研究科の各専攻・各課程において、秋入学のシステムを開始し、平成 26 年 10 月に、博士前期課程に外国人留学生（中国）が入学した。これに伴い、秋入学者のための英語による大学院講義システムを構築し、運用を開始した。 ・中国の瀋陽薬科大学と黒竜江中医薬大学を訪問し、大学院生の留学について広報活動を行った。 ・大学院生の確保のために医学研究科と「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の申請を行なった。 ・2 回目の大学院博士後期課程、博士課程の入試が実施され、後期課程で 4 人、博士課程で 1 人合格し、充足率がともに 100%、180%となった。 ・大学院の各専攻の入試の英語の募集要項の作成を行い、平成 27 年度より配布する予定である。	【取組実績】 ・平成 26 年度より、大学院薬学研究科の各専攻・各課程において、秋入学のシステムを開始し、平成 26 年 10 月に、博士前期課程に外国人留学生（中国）が入学した。これに伴い、秋入学者のための英語による大学院講義システムを構築し、運用を開始した。 ・中国の瀋陽薬科大学と黒竜江中医薬大学を訪問し、大学院生の留学について広報活動を行った。 ・大学院生の確保のために医学研究科と「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の申請を行なった。 ・2 回目の大学院博士後期課程、博士課程の入試が実施され、後期課程（<u>創薬生命科学専攻</u>）で 4 人、博士課程で 1 人合格し、充足率がともに 100%、180%となった。 ・大学院の各専攻の入試の英語の募集要項の作成を行い、平成 27 年度より配布する予定である。

・フィリピンのサント・トーマス大学およびトルコのハジェデペ大学を訪問し、大学院生の留学について広報を行うとともに、平成 27 年度夏に合同で国際シンポジウムを開催することを決定した。 ・フィリピンの生化学・分子生物学会年会で名市大で行なわれている研究の一部を発表し、本学の研究を紹介するとともに、大学院生の留学について意見交換を行った。 【取組の成果、課題】 ・複数教員による集団指導体制による、各専攻科での人材育成の目的に沿った教育が着実に実施されている。 ・博士後期課程（<u>創薬生命科学専攻、ナノメディシン科学専攻</u>）の学生定員が満たされておらず、充足率の向上が求められる。 ・一方、博士課程は学生定員を満たしてはいるが、逆に定員の 1.4 倍ほどの学生が入学しており、入学者数、あるいは定員の是正が必要である。 ・国際化に向けて、募集要項、入学願書、ウェブサイトなどの英文化を進めるとともに、春・秋を問わず、さらなる留学生の入学者数を増やす方策を考えていく必要がある。	・フィリピンのサント・トーマス大学およびトルコのハジェデペ大学を訪問し、大学院生の留学について広報を行うとともに、平成 27 年度夏に合同で国際シンポジウムを開催することを決定した。 ・フィリピンの生化学・分子生物学会年会で名市大で行なわれている研究の一部を発表し、本学の研究を紹介するとともに、大学院生の留学について意見交換を行った。 【取組の成果、課題】 ・複数教員による集団指導体制による、各専攻科での人材育成の目的に沿った教育が着実に実施されている。 ・博士後期課程（<u>ナノメディシン科学専攻</u>）の学生定員が満たされておらず、充足率の向上が求められる。 ・一方、博士課程は学生定員を満たしてはいるが、逆に定員の 1.4 倍ほどの学生が入学しており、入学者数、あるいは定員の是正が必要である。 ・国際化に向けて、募集要項、入学願書、ウェブサイトなどの英文化を進めるとともに、春・秋を問わず、さらなる留学生の入学者数を増やす方策を考えていく必要がある。
---	--